

2015年4月

第55号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888

戦後70年目の年に当たって

今年は、太平洋戦争の敗戦から70年の節目の年を迎える。

この大戦でわが国は300万人にも及ぶ犠牲者を出し、原子爆弾が投下され、全国各地が焦土と化し、国民総貧困の世の中を体験することとなった。

これだけの被害・損害を被ったにも拘らず、誰が、どのような意図を持って開戦を決断したか、そして終戦後に日本人の手によってこの大戦の「愚かさについて」その所在の追及と十分な検証や反省がなされた形跡がない。

戦後の日本は、日米同盟・平和憲法を国づくりの根底にすえ、経済力の向上と戦後の復興を最優先課題として掲げ、ひたすら目的達成のため邁進した結果GDP世界第2位の経済力を確立するまでに至った。

国際関係では、国際連合で米国に次いで世界2位の分担金を拠出し、戦後「朝鮮戦争」「ベトナム戦争」「湾岸戦争」「イラク戦争」など数々の戦争や紛争が相次いで惹起されたが平和憲法の下、武力介入は一貫して拒否し「平和国家」として歩み、世界平和のために貢献してきた。(もっとも91年湾岸戦争後、巨額の資金提供により側面支援したが「汗を流さない国」と批判を受けた)

こうして戦後70年の今年、「首相談話」の内容が有識者会議で検討されているが、先の「村山首相談話」では「侵略」「植民地支配」「痛切な反省」と「おわび」がキーワードとなっており、今回はその中の何を受け継ぎ、何を新たに加えられるか注目を集めている。

中国の李克強首相は3月15日「国家の指導者は先人の功績を引き継ぐだけでなく、犯罪行為がもたらした歴史の責任を負うべきだ、それが中日関係を改善させるきっかけとなる。」と述べ牽制している。

近年、世界各地で紛争やテロ活動が活発化し、日本人も巻き込まれるケースが多くなってきた。また中国の「覇権主義の動き」や北朝鮮の「核開発の動き」からも目を離せない。さらに米国の動きも気になるところだ、長年「世界の警察」として君臨してきたが、米国国内の世論が「厭戦気運」が高まり地上部隊の海外派兵に消極的になっており、日米同盟も必要なときに機能するか同盟関係のより強い絆の構築が必要とされる。

現在「集団自衛権」や「憲法改正」問題で様々な議論が戦わされているが、日米同盟を堅持しつつ、さらに平和憲法を守りながら「国民の生命と財産を守る」「自らの国の防衛」のためには最低限の体制と法整備を図るとともに「国を守る」意識の涵養も必要である。

戦後の日本の方向は総じて肯定できるものであり、これからも未来志向の下、国連を中心とした「世界の平和と発展、繁栄に貢献する国」であり続ける役割りを担いながら国民が幸せを感じられるような国づくりを進めて欲しい。

安定志向が人と組織を腐らせる

類は友を呼ぶというけれど、同じ考えの者ばかりが集まり、互いを認め合って満足していると、そこはぬくぬくとした閉鎖空間となってしまう、新しい考えや発想が出てくることはまずなくなる。

また、組織の年長者が自分の考えと同じ意見を持つ若者ばかりを引き立てるようになると、その若者も組織も、確実にだめになってしまう。

反対意見や新しい異質な発想を恐れ、自分たちの安定のみに向かうような姿勢は、かえって組織や人を根元から腐らせてしまい、急速に頹廢と破滅をうながすことになる。



「曙光」

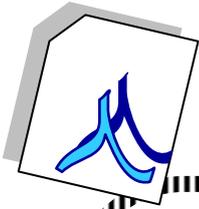
つまらないことに苦しまない

暑い反対は寒い。明るい反対は暗い。大きい反対は小さい。これらは相対的概念を使った一種の言葉遊びだ。現実もこれと同じだと思っただけではない。

たとえば「暑い」は「寒い」に対立しているのではないということだ。この両者は、ある現象が自分に感じられる程度の差をわかりやすく表現しているにすぎない。

それなのに、現実もこのように対立していると思っただけでしまうと、ちょっとした手数の多さが困難や苦勞となり、ささいな変化が大きな苦しみとなり、たんなる距離が、疎遠や絶縁につながってしまう。

そして多くの悩みは、この程度の差に気づかない人々の不平不満なのである。



法然房源空（浄土宗を開いた元祖）

- 1133年4月7日（長承2年）岡山県久米南町、当時押領使・漆間時国と秦氏君（はたうじのきみ）の子として誕生寺（熊谷直実建立）で生まれる。
- 1141年（保延7年）9歳の時に土地争いから父が殺害され菩提寺の院主であった母方の叔父の僧侶・観覚のもとに引き取られた。観覚は出家のため学問をさずけ、仏教最高学府の比叡山での勉学を勧めた。
- 1145年（天養2年）比叡山に登り、源光に師事した。
- 1147年（久安3年）同じく比叡山の皇円の下で得度し、天台座主行玄を戒師とし、授戒を受けた。
- 1156年（保元元年）京都清涼寺・醍醐寺などに遊学。
- 1175年（承安5年）43歳の時、禅導の『感無量寿経疏』によって回心を体験し、専修念仏を奉ずる立場に進んで浄土宗を開いた。
- 1204年（元久元年）後白河法皇13回忌法要「浄土如法経」を長講堂で開く。
- 1207年（承元元年）後鳥羽上皇より念仏停止の断下る。同年12月に赦免。
- 1212年1月25日（建暦2年）京都市東山大谷で死去。享年80歳。

「法然上人は専ら阿弥陀仏の誓いを信じ『南無阿弥陀仏』と念仏を唱えれば死後は平等に往生できるという専修念仏の教えを解き、のちに浄土宗の開祖と仰がれた」

オススメの *BOOK*



『捏造の科学者』（STAP細胞事件）

作者 須田 桃子 文藝春秋

昨年1月28日の記者会見で「iPS細胞に勝るとも劣らないSTAP細胞が発見された」研究者の小保方晴子氏と論文共著者の笹井芳樹氏らによって「大発見の成果」が熱く語られた。iPSの山中教授に次ぐノーベル賞候補者の登場かと色めき立った。

しかし、発表論文に多くの瑕疵が発見され、結局「捏造」と判定を受け科学誌ネイチャーに掲載された論文も取り下げとなった。

論文発表直前から破綻までを多数の関係者に取材をし続けその事実関係を克明にまとめ上げたのが本書である。その執念には脱帽させられる。

„進む” 東北での先進医療（山形大学）！

日本人の2人に1人ががんになる時代です。

がんの先進医療である陽子線治療や重粒子線治療で約300万円の技術料がかかるという話はよく耳にします。

もし、最先端の医療（先進医療）を1カ月わずか100円程度の保険料で、通算1,000万円や2,000万円まで付加できる保険があれば誰もが安心して加入いただけるでしょう。

先進医療とは、最新医療技術の中で、安全性と治療効果が確認されているものの、いまだ保険診療の対象には至っていないもので、厚生労働大臣が定める施設基準に適合する病院で行われています。（2015年1月1日時点で106種類の先進医療があり随時入替が行われています）。

さて、がんの治療以外にも身近な先進医療があることをご存じですか。

「先進医療」というと、「がん治療」というイメージがありますが、先進医療で対応しているのは「がん治療」だけではありません。最も治療実績の多い先進医療は「前眼部三次元画像解析」、次いで「多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術」であり共に眼科疾患における医療となっています。

「多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術」は白内障の先進医療です。先進医療にかかる費用



は平均で約50万円でその全額を自己負担しなければなりません。先進医療の保障を付けることによって、費用の心配をしないでこの様な治療の選択ができるのは嬉しいことです。

しかし、自分の病気に該当する先進医療をどこの病院で受けることができるか一般の方は知らないのが現状ですが、身近なところでは2019年10月に山形大学で重粒子線がん治療が開始される予定です。

先進医療を受けるためには、情報の収集が必要になります。最近の生命保険や医療保険には、付帯サービスとしてセカンドオピニオンを受けるための優秀専門医を紹介してもらえたり、紹介状を発行してもらえるサービスなどもあります。いくら先進医療特約に加入していても、そこにつないでくれる付帯サービスがなければ、先進医療にたどり着くのは難しいものです。

先進医療特約を考える上で重要なポイントとなるのは、通算限度額の大小よりもそこまで繋いでくれる付帯サービスがあるかないかです。

必ずしも、先進医療が最善の治療法とは限りませんが、治療の選択肢を増やすためにも、まず、自分の加入している保険はどのような付帯サービスがあるのかを再確認してみましょう。



福島の桜

【編集後記】

桜開花の話題がどんどん近づいてきた。

「アラブの春」と言われたアフリカの民主化運動がアフリカに異変をもたらした。

多くの国民は民主化によって生活が向上すると思っていたものの為政者が異なっただけで生活に変化はなく国内での対立と混乱のみをもたらす結果となった。

世界では各地で紛争と混乱が続いているが早く争いの世界から脱出し真の平和、うらかな春の訪れを期待したい。